

## 情報公開内容

**課題名:**アーチファクト低減技術によるEOB造影MRIの肝細胞造影相における画質比較の検討

### 本研究の目的

肝細胞特異性造影剤であるガドキセト酸ナトリウム (EOB) を使用した造影MRI検査は肝腫瘍診断における有用性はすでに確立されています。しかしながら、肝を含め腹部領域のMRIは呼吸や消化管の動きによる偽陰影 (アーチファクト) が強く出現し、画質が劣化してしまうことが大きな問題です。これに対し、近年呼吸や消化管の動きによるアーチファクトを抑制するための技術として、様々な技術が導入されています。しかしながら、従来の撮像方法と比較し、これらの技術による撮像との詳細な比較検討は十分には行われておらず、それぞれの患者さんにどの撮像方法がもっとも適しているのかはよくわかっていません。そこで今回我々はEOB造影MRI検査において、従来の撮像方法とアーチファクト低減技術を用いた撮像方法による画像を比較検討し、それぞれの利点欠点を明確にすることを目的とし、本研究を立案しました。

### 本研究の対象

2017年6月から2019年3月の間で、広島大学病院にて肝腫瘍精査目的にEOB造影MRI検査が行われた患者さん。

### 本研究の期間

承認後～2021年3月31日

### 本研究の意義

本研究は、EOB造影MRI画像において、従来の撮像方法とアーチファクト低減技術を用いた撮像方法による画質を比較検討し、それぞれの利点欠点を明確にすることを目的としています。このため今回の検討結果からそれぞれの撮像方法の利点欠点が明確となれば、患者さんの状況に応じた最適な撮像方法を選ぶことが可能となると考えられ、本研究の臨床的意義は高いと考えています。

### 研究の方法

本研究ではすでに行われている画像所見や血液検査などのデータを解析します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、患者の性別、年齢、採血データ、画像所見 (CT、MRI、PET-CT、RIなど)、病理所見、臨床情報 (既往歴、現病歴、合併症など) です。

## 試料・情報の管理責任者

広島大学病院 放射線診断科 教授 粟井和夫

## 個人情報保護の方法

- (1) 対象患者さんのカルテ、画像に記載された個人情報はすべて匿名化した上で研究に使用します。
- (2) 学会誌や学会での発表等、調査結果を公表する際、個人情報は一切公表しません。
- (3) この研究で収集したすべての情報は、この研究の目的以外では使用いたしません。
- (4) データは外部と独立したコンピューターで管理し、パスワードによるログイン機能の付加、コンピューターをセキュリティーの厳重な部屋に保管します。
- (5) 収集した患者さんのデータは、研究終了10年後すべてコンピューター上から削除、書類はシュレッダー等で処理した上で廃棄します。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療などに不利益が生ずることはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

広島大学病院 放射線診断科

研究責任者(責任者):教授 粟井和夫

研究責任者(担当者):准教授 中村優子

研究責任者(担当者):医科診療医 成田圭吾

連絡先電話番号:082-257-5257